

過去の荒川水系流域委員会における主な意見

項目	開催回	主な意見
総括	第6回	整備計画の対象期間が30年間というのは、長すぎるのではないかと、特に、環境に関する施策や水利権の更新など。
治水	第2回	河道内に砂州が多く堆積し、植生も多い。出水時に懸念されるので維持管理を徹底して欲しい。
	第2回	流域が短いのに水量が多い。出水時には川が暴れるのではないかと、また雨が降ると出水するまでの時間が短いのではないかと。
	第2回	荒川は整備が進み、人工物も多く、しっかり管理されていると感じた。
	第2回	過去の破堤箇所は、洪水の記録として現地にも表示したらどうか。
	第2回	ダムの機能を一般の方によく説明していただけると良い。
	第3回	羽越水害で大きな被害を受けたが、小国町の最高水位より高い位置に堤防が築かれていない。横川ダムの様なダムと、砂防事業等によって小国町は守られるのではないかと印象を受けた。
	第3回	治水上、ダムの効果はあるが、横川ダムが出来たからといって絶対安全とは限らないことを認識しないといけない。
	第3回	砂防ダムは効果があるが、満砂ダムが沢山あるのでスリット化を進めて頂きたい。
	第4回	浸水想定区域図は、低い洪水流量の場合の想定区域も明示しておくとう分かり易い。
	第5回	河道内の砂州、樹木について、適正な管理を実施して頂きたい。
	第5回	河道の蛇行について、水衝部が危険にならないよう、滞筋を河道の中央に近づけるなどの対策が必要である。
	第5回	現在の荒川直轄区間の河道は安定しているが、将来的に土砂移動の平衡が崩れることも予想されるため、河道の監視を継続的に実施する必要がある。
	第6回	目標の流量が羽越水害の9割の流量という表現は、地域住民の理解が得にくいのでは？また、説明に当たっては確率規模がいくらぐらいかわからないが、併記すれば分かり易いのではないかと。
	第6回	羽越水害の時は、荒川頭首工に流木がつまり、洪水被害を助長したように記憶している。また、頭首工下流が深掘れしている。このような堰は利水上必要であろうが、治水上は撤去すべきでは？
第6回	河口砂州の固定化によって、洪水の流下阻害、魚類の遡上障害、マリーナからの船舶の出航障害が発生しているため、河口砂州を撤去することを検討できないか？	
第6回	河川管理者が有する情報は、情報提供体制を一元化した上で、自治体と一緒に積極的に開示していくべき。特に渇水時の情報も積極的に開示すべき。	
環境	第2回	雨の中で現地調査し、荒川は濁らない川だなと感じた。
	第2回	今後も流域一体となり下水道整備を進め、水質について、全国ベスト10内にしたい。

過去の荒川水系流域委員会における主な意見

項目	開催回	主な意見
環境	第3回	下水道整備後は水質がもっと良くなる。カジカの棲む川は水質も良い。
	第3回	砂防ダムがスリット化され、今後良い川になるだろう。(腐敗臭も解消され)
	第5回	河川の水質について、有害物質の流下を見逃さないよう、継続的に監視していく必要がある。
	第2回	治水だけでなく、河川敷の景観を整備する事業が進んでいる。
	第2回	土木構造物の景観面の配慮が今まで以上に必要。
	第3回	横川ダム上流の集落景観の記録や貴重な材料を残して頂きたい。
	第3回	横川ダムの湖面橋周辺は常時満水位ではあまり湛水しないので、景観上、研究して頂きたい。
	第3回	自然環境や景観に対する配慮が進んでいるが、もう少し研究をして頂きたい。
	第6回	塩谷地区の築堤を行う場合には、塩谷集落の歴史的価値に配慮したものとすべき。
	第2回	治山治水だけでなく、景観や動植物にも配慮した整備がなされている。
	第2回	河川敷の利用と自然の保全区間を区別しないといけない。
	第2回	河川には鳥の棲める空間を保全する必要がある。
	第2回	荒川水辺の楽校の整備では自然を多く残してほしい。
	第2回	荒川頭首工の魚道改修で小国まで魚が昇れる魚道をつくっていただきたい。
	第3回	カジカは年々減少しているが、リフレ(小国町白い森交流センター)周辺にカジカが増えていることは良いことだ。
	第3回	魚の保護という観点で、河床に巨石を沈めて頂きたい。
	第3回	荒川流域ではカジカカエルが沢山ないていた。水質が良い証拠である。
	第3回	横川ダムの自然環境調査は長く実施されているので、今後、生態系がどのように変わっていくか継続調査が必要。(アカザ等、水生生物)
	第3回	荒川流路工は魚にやさしい作りをしている。ただ、床固めは水平に整備され、水量が少ない時水が薄く流れ、魚が上れないのではないかと。
	第3回	砂防ダムのスリット化によりカジカが増えた。小石が増え昔の自然の川によみがえってきた。下流でも期待している。
第3回	餌場の石が小さくなり、今年のアユは小さい。石を増やすことは生態系からも重要。	

過去の荒川水系流域委員会における主な意見

項目	開催回	主な意見
環境	第4回	昔の河川環境の回復という方向を出して検討すべきである。
	第4回	直轄区間だけでなく、県管理区間も含めた水系全体の議論も必要である。
	第4回	国土交通省が所管していない施設についても、魚類の遡上について一般的な考え方が必要である。
	第5回	国土交通省が所管していない施設についても、魚が行き来出来るようにするための検討委員会のようなものを設置することを盛り込んで頂きたい。
	第5回	河川環境について、魚類に限らず、生態系一般について、より多様性の高い環境を復元創出する必要がある。
	第6回	羽越水害以前のより豊かな環境の再生という基本方針に対して、サクラマスの生息が河川環境整備の一つの指標になるのでは？
	第6回	羽越水害以前のより豊かな環境の再生という基本方針に関する取組が十分ではないのではないか？サクラマスの避難場所を整備するため、コンクリートブロックではなく、木工沈床を多用することなどを検討して頂きたい。
	第6回	河道掘削について、荒川沿川に猛禽類が生息していると聞いているが、河川工事への影響はどう考えているか？
	第6回	花立狭窄部でミサゴが4、5つがい営巣しており、工事現場（頭首工の護床工：農林施工）に近い巣のぼうがむしろ順調に雛が成長している。工事や周辺の交通の影響は少ないと考えている。
	第6回	また、オジロワシが花立で越冬した。荒川の環境が良好な証拠と考えられる。
	第3回	現場におけるリサイクルや、環境に関する情報を一般に提供して頂きたい。
	第6回	河川工事の実施に当たっては、施工時期、施行方法、施工規模を検討することになっているが、特に施工規模については適切に設定していただきたい。
	第3回	市野々にある歴史、文化的なものを大切にさせて頂いて良かった。
	第4回	河川整備計画の策定に当たっては、荒川3港の繁栄を初めとした荒川の歴史的背景を考慮したものとすべきである。
	第5回	自然環境だけでなく、その地域の歴史も重要な環境学習の項目である。
	第2回	小学校の自然学習の取り組みを生かす子供たちの学べる空間も必要。
	第2回	最近の子供たちにパワーがないのは、自然にふれる機会が少ないからではないか。水辺の楽校はこれからの日本の社会のために有効だと思う。
	第2回	神林水辺の楽校は旧堤防とか、パンフレット以外でもわかるように説明表示が必要。
	第2回	神林水辺の楽校は程良い整備である。これ以上手を加えると良くない。
	第2回	一般の人達に対し、水辺の楽校等の施設の入り口の表示も必要。
環境	第2回	荒川は自然が豊かで、近隣には重要な文化財があるので、街づくりや教育面でよい資料がある。

過去の荒川水系流域委員会における主な意見

項目	開催回	主な意見
	第2回	環境の保全や学習の場の提供など、地域住民の生活と直結した時代の要望に応じた整備が進んでいる。
	第3回	小国中心部のふれあい橋周辺は、川と町民の接点となっているので、護岸に階段等を設置して川との触れ合いの場（親水の整備）が必要。
	第3回	今は夏の渇水時期だが、荒川は水量が多いと感じ、生態系（魚）に良いと感じた。
	第3回	上流域では河川を身近に感じる事ができた。（下流では川と堤防で分断されている。）
	第3回	砂防ダムが整備され川の石が減った。スリット化により回復することを期待している。
	第5回	ゴミ投棄について、ゴミからの有害物質の流出なども懸念されることから、地域一帯となった対策を検討すべきである。
	第6回	ボランティアでゴミ拾いをする人が参加しやすくなるよう、拾ったゴミの収集などの体制整備を検討して頂きたい